

### 今号の内容

- ◆柳川夏の水まつり 水上で水辺で歓声 2~3
- ◆合併処理浄化槽設置の上乗せ補助ほか 4
- ◆市民協働まちづくり団体募集ほか 5
- ◆市民のひろば(6-7) ◆俳句(7) ◆情報わいど(8-13) ◆がんばったね(13-14) ◆もちふみデビュー(15) ◆人権・同和教育シリーズ(16)



## 真夏の夜に火を噴く中島大蛇山

中島祇園祭が7月27日、中島地区の八剣神社を中心<sup>やつるぎ</sup>に催されました。この祭りは、同神社に祭られている素戔嗚尊<sup>すさのおのみこと</sup>に無病息災や豊作豊漁を祈願するもの。各地域から出された大蛇山や獅子山、踊り山、子ども大蛇の山車や殿様行列が、まち中を練り歩きました。夜9時ごろに、同神社前で獅子山と向き合った大蛇山の口から花火が出ると、祭りの熱気は最高潮。2つの山車の周りには黒山の人だかりができ、大いに盛り上がりました。

# 人権作文

### 勇気をくれた 友達の一言



矢留小学校6年  
松村 駿<sup>しゅん</sup> くん

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

「今日は、朝、始業式があるから、そこで自己紹介をしてください。」

と言われ、ぼくはさすがに緊張しました。どんな人たちがいるのかな、友達になれるかな、と不安でいっぱいでした。そして、いよいよむかえた自己紹介のとき。ドキドキしていると、校長先生が、

「今日は、新しい友達が来ています。」

と言われました。ぼくは、自己紹介だとすぐに分かりました。ぼくが名前と前いた学校のことを話すと、みんなが興味しんしんの顔でおどろいていました。それから、休み時間になると、同じクラスの友達が声をかけてくれました。

「外で遊べるようになったら、一緒に遊ぼうね。」

朝、家を出るときからドキドキ、がちがちにきん張っていた心が、

く楽しく過ごしていきたいです。



【評】 たくさんの方の友達に囲まれ、元氣いっぱい過ごす駿さん。転入してきた時の心細さと共に、友達に声をかけてもらった嬉しさ、友達の言葉に勇気をもらい自分からも声をかけたことが2年たった今も心に強く残っているそうです。友達の存在が、何よりも温かく、勇気をくれるものであることを駿さんは学ぶことができました。今の友達、これから出会うであろう友達、たくさんの友達と共に、笑顔で過ごせたらいいですね。

その一言で温かくなり、すこくうれしくなりました。その日、帰るまでには、クラスのほとんどの人と友達になりました。それというのも、ぼくに話しかけてくれた友達のあの一言に勇気をもらい、ぼくからもがんばって話しかけたからです。

あれから2年がたち、ぼくは今、6年生です。休み時間には、6年生だけでなく、他の学年の人たちともサッカーやキックベースをして遊びます。

「ナイスキャッチ。」  
「ナイスキック。」

おたがいに言い合って、仲良く楽しく遊んでいます。ぼくは、低学年の人たちががんばったときには、特に笑顔で声をかけるようにしています。

友達をつくる勇気と、友達と仲良く遊ぶ勇気をもらって、ぼくにはたくさんの方ができました。これからも、みんなと仲良